

指導資料



鹿児島県総合教育センター

社会 第105号

- 中学校，盲・聾・養護学校対象 -

平成18年5月発行

基礎・基本の定着を図る中学校社会科学習指導の充実

- 平成17年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫 -

鹿児島県教育委員会では平成15，16年度に引き続き，平成17年度「基礎・基本」定着度調査（以下「今回」という。）を実施した。この調査は，学習指導要領が示す基礎的・基本的な内容のうち，「読み・書き・算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに，各校の課題を明確にし，きめ細かな指導法の改善に資するなど，基礎・基本の定着を目的として実施したものである。

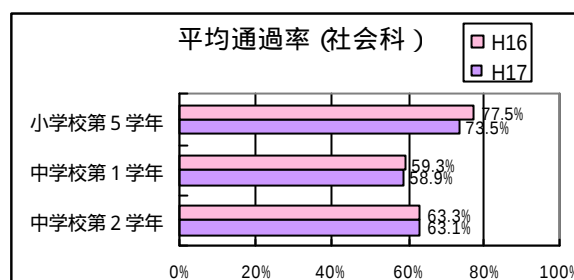
今回も，平成16年度「基礎・基本」定着度調査（以下「前回」という。）と同様に，小学校第5学年で国語，社会，算数，理科，中学校第1学年及び第2学年で国語，社会，数学，理科，英語について，各学年すべての児童生徒を対象に実施した。

そこで，本稿では今回の社会科の結果について前回の結果と比較しながら分析するとともに，基礎・基本の定着を目指す中学校社会科学習指導法の工夫改善について述べる。

1 定着度調査の結果と考察

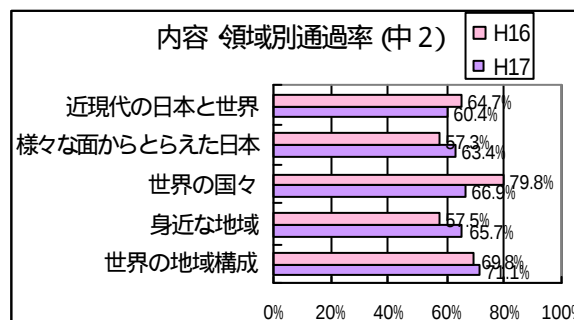
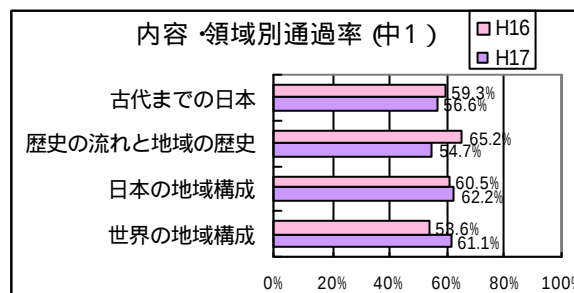
(1) 平均通過率

小学校第5学年は，前回よりも4%低下しているものの73%を超える通過率であり，基礎・基本はおおむね定着していると言える。

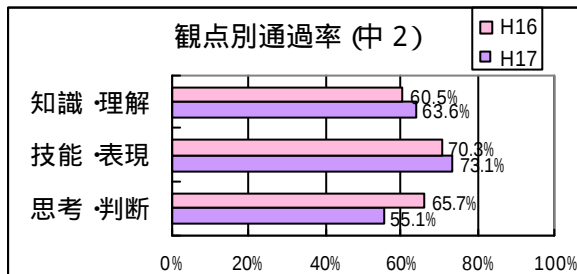
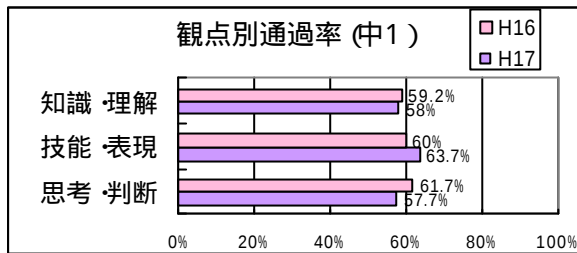


中学校は，第1学年が約59%，第2学年が約63%であり，前回と同じく低い傾向である。今回も依然として小・中学校間格差が見られることから，小学校での学習内容や学習方法を把握するとともに，小・中学校の系統性を踏まえた指導が必要である。

(2) 内容・領域別，観点別通過率



中学校第1学年では「歴史の流れと地域の歴史」、第2学年では「近現代の日本と世界」の通過率が低い。また、前回に比べ通過率が低下したのは、第1学年の「歴史の流れと地域の歴史」、第2学年の「世界の国々」に関する内容である。



中学校第1学年は、三つの観点共に前回とほぼ同じ低い傾向であるが、「知識・理解」「思考・判断」についてはさらに若干低下している。第2学年は、前回に比べ「思考・判断」が約10%低下した。

(3) 通過率が低い問題と誤答傾向

ア 〔第1学年〕

問 題 (概要)	誤答例等	
近畿地方の中で、府県名と府県庁所在地名が一致する府県の数を選ぶ問題	正答	4 (府県)
	通過率	34.4%
	誤答例	3 (府県) 5 (府県)
正距方位図法で東京から真東の方向に進んだ場合に、最初に到達する大陸を選ぶ問題	正答	ウ(南アメリカ大陸)
	通過率	35.7%
	誤答例	ア(北アメリカ大陸)
唐の都「長安」に倣ってつくられた都の名前を答える問題	正答	平安京
	通過率	38.5%
	誤答例	平城京 京都

近畿地方で府県名と府県庁所在地名が一致する数を答える問題では、通過率が34.4%と低かった。このことから、近畿地方に限らず、都道府県の位置や名称、県庁所在地の名称が身に付いていないと思われる。

正距方位図法での方位に関する問題は、北アメリカ大陸という誤答が最も多かった。正距方位図法は、中心からの距離と方位が正しい図法であるということを、地球儀等を活用して理解させる手立てが不十分であったと思われる。

平安京という名称を答える問題では、平城京や京都という誤答が多かった。問題文の資料には場所が京都であることが明示されていることから、平安京と平城京が記憶の上で混同していると思われる。

イ 〔第2学年〕

問 題 (概要)	誤答例等	
大日本帝国憲法の内容として適切なものを選ぶ問題	正答	ウ(天皇が軍隊を統率)
	通過率	33.7%
	誤答例	イ(衆議院と参議院)
25,000分の1の地形図で4cmは、実際は何mかを計算する問題	正答	1000(千)
	通過率	33.8%
	誤答例	100000 100
徴兵令の内容として不適当なものを選ぶ問題	正答	ア(士族を中心とする軍隊)
	通過率	37.4%
	誤答例	エ(戸主は兵役を免除)

大日本帝国憲法の内容としては、天皇の権限についての理解や帝国議会が衆議院と貴族院から構成されていることの理解が不十分であったと思われる。

25,000分の1の地形図での距離計算の問題では、100,000mや100mという誤答が多かった。縮尺に基づく計算において、センチメートルをメートルに単位換算することなどが不十分であったと思われる。なお、この問題は前回もほぼ同じ内容で出題されていたが、通過率は若干低下している。

徴兵令の内容として不適切なものを選ぶ問題では、満20歳に達した男子は土族・平民にかかわらず兵役の義務を負うことになったことの理解が不十分であったと思われる。

2 結果を踏まえた改善策

(1) 改善の視点

小・中学校の系統的な指導

前回同様、中学校第1学年の平均通過率が伸び悩んでいるが、中学校第1学年での学習については、これまでも入念な指導がなされてきた。

しかしながら、結果として基礎・基本が定着していないことから、改めて小学校での社会科学習の内容や方法を踏まえ、中学校での指導の在り方を改善する必要がある。具体的には、学習の主体者である子どもたちに視点を置き、小学校社会科でどのような学習を経験し、どのような力が身に付いているのかを適切に把握し、指導に生かすことが大切である。

- ア 学習指導要領，教科書の活用
- イ 小学校の授業参観
- ウ 授業の共通実践事項

「知識・理解」定着の見届け

通過率の低い問題に共通してみられる傾向の一つとして、社会科学習を進める基盤としての「知識・理解」が身に付いていないことが挙げられる。例えば、学習指導要領の地理的分野の内容の一つである「日本の地域構成 - 都道府県の構成と地域区分」の学習を進めることを通して、都道府県の位置と名称を確実に身に付けさせることが大切である。そのためには地図を積極的に活用するとともに、生徒一人一人の知識・理解の定着を確実に見届ける必要がある。

- ア 基礎的・基本的事項の明確化
- イ 指導計画への位置付け
- ウ 自己学習のための援助

学習の見通しと概観する力

前述した地形図での距離換算についての問題は、縮尺の学習を進める中で実際場面を想定させ、量概念としておおよその距離をイメージできる力が必要である。このような概観する力は他の分野の学習でも重要である。例えば歴史的分野の学習では、徴兵令や大日本帝国憲法という個々の事象に関する理解だけではなく、明治政府の諸改革による近代国家への基礎づくりや人々の生活の変化などという時代の動きをとらえさせることである。

- ア 単元オリエンテーションの重視
- イ 社会事象を実感させる工夫
- ウ 視覚的にとらえさせる工夫

(2) 改善策

小・中学校の系統的な指導

ア 学習指導要領，教科書の活用

基礎・基本の拠り所として学習指導要領を理解し活用することが大切である。

その際，中学校の学習指導要領及び同解説（社会編）はもちろんのこと，小学校の学習指導要領や教科書をぜひ読んでほしい。

例えば，小学校の理解に関する目標の系統は次のようになる。

第3学年及び第4学年
- 地域の産業や消費生活の様子，人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにする。 - 地域の地理的環境，人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにする。
第5学年
- 我が国の産業の様子，産業と国民生活との関連について理解できるようにする。 - 我が国の国土の様子について理解できるようにする。
第6学年
- 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにする。 - 日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにする。

観察・資料活用の技能・表現の観点では，第3学年及び第4学年において「地図の基礎的な要素である主な地図記号や四方位を理解し活用できるように指導する。」と示されている。また，第5学年における「国土の位置」の学習では，「国土を構成する北海道，本州，中略 近隣諸国の国名と位置などについて地図帳などを活用して具体的に調べ，地図に表すなどの活動が考え

られる。」と示されている。

イ 小学校の授業参観

小学校の学習内容を把握するとともに授業参観の機会も作り，小学校の社会科学学習がどのように進められているかを実際に知ることは大切である。

小学校社会科では学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習，問題解決的な学習を重視した授業を展開している。

こうした授業の進め方は中学校でも参考になることが多く，小学校の学習から中学校の学習へのスムーズな接続のためにも積極的な授業参観の機会を設けてほしい。

ウ 授業の共通実践事項

授業参観に加え，授業研究や合同研修会などで社会科に限らず小・中学校の共通実践事項を設定した取組内容を提示する。

《授業の共通実践事項》
学習目標の明確化（板書に明示）
「今日はこの学習をする」
学習内容の精選（発問の工夫）
「教えること」と「考えさせること」
評価と見届け
「今日は何を学習したか確認する。」



- 一人一人の実態把握
- 具体的な到達目標の設定
- 終末の重視と確実な見届け

また，合同研修会等で，例えば「都道府県，国の名称や位置の学習をどう進めるか」などについて具体的な情報交換を行うことが，互いの指導方法改善はもとより，子どもたちの学力向上につながる。

「知識・理解」定着の見届け

ア 基礎的・基本的事項の明確化

「生きる力」をはぐくむ社会科学学習を目指して、内容の厳選や学び方を学ぶ学習の充実が強調されている。また、調査結果における「知識・理解」の落ち込みを改善するためには、基礎的・基本的事項を明確にし、その確実な定着を図らなければならない。そこで、中学校第1学年での導入時期に行われる「世界と日本の地域構成」を例に、基礎的・基本的事項を確認したい。

〔内 容〕

(1) 世界と日本の地域構成

ア 世界の地域構成

地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを取り上げ、世界の地域構成を大観させる。

(ア) 地球上の位置関係と水陸の分布

地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、時差、大陸と海洋の分布などを取り上げ、生活舞台としての地球を大観させ、地球的規模での位置関係をとらえる基礎的な技能や知識を身に付けさせる。

(イ) 国々の構成と地域区分

現代の世界は、州や大陸及びそれらを幾つか区分した地域でとらえられていることや様々な国々から構成されていること理解させ、主な国々の名称と位置を地図を用いて身に付けさせるとともに、地名や地図への関心を高める。

上記の内容を学習する際には、学習指導要領解説等を熟読し、そのねらいを理解することが大切である。例えば、「主な国々」の選択に当たっては、「大まかに世界地図を描けるようにすること」というねらいを踏まえると、選んだ国々が適度に世界に広がって分布しているよう配慮することが大切である。

イ 指導計画への位置付け

明確にした基礎的・基本的事項を計画的に身に付けさせるには、評価規準として指導計画に位置付ける必要がある。地理的分野「世界の地域構成」でその例を述べる。

【社会的事象についての知識・理解】

- 緯度と経度、北半球と南半球、時差、本初子午線と日付変更線、六大陸と三大洋などの用語の意味を理解している。
- 主な国々の名称と位置、世界の地域区分に関する知識を身に付けている。

この評価規準に基づき、単元の指導計画に評価の場面や方法を具体的に明記しておくことが重要である。

ウ 自己学習のための援助

「わかる授業・できる授業」を展開することは大切であるが、主体的な学習を促進するには、「もっと知りたい、調べたい」という意欲を呼び起こす仕掛けが重要である。社会事象のしくみを理解させるだけではなく、生徒の認識を揺さぶる発問や資料提示を工夫したい。

また、授業後の家庭学習等を効果的に行わせるためには、一人一人の学習状況に応じた援助が必要である。

そこで、1単位時間での到達目標を具体的に提示し、必要に応じて形成的評価を行い、その結果を生徒に返すことが大切である。その際、生徒一人一人の習熟の程度に応じて補充学習の場を設けたり、どのような方法で学習すればよいかといった、学び方についての具体的な個別指導を行ったりする必要がある。

学習の見通しと概観する力

ア 単元オリエンテーションの充実

学習意欲がわかなかったり，学習が停滞したりする原因の一つに学習の見通しがもてないことがある。これまで中学校社会科の授業では，ややもすると単元の構造に関係なく，1 単位時間の内容理解だけを重視して，毎時間同じような授業が展開されることがあった。学習への見通しをもたせ，意欲を喚起することをねらいとして単元の導入段階でのオリエンテーションを重視した例を紹介する。

「第 1 次世界大戦とアジア・日本」

1 単元の指導計画（8 時間）

1	単元オリエンテーション（本時）
2	第 1 次世界大戦と日本
3	国際協調の時代
4	アジアの民族運動
5	大正デモクラシー
6	社会運動の高まり
7	新しい生活と文化
8	単元のまとめ

2 本時の目標

- (1) 単元にかかわる学習内容に対する興味・関心を喚起させるとともに，時代を大観させる。
- (2) 単元を貫く学習目標を把握させる。

3 本時の主な学習活動

導 入	1 大正時代について学習することを知る。
	2 学習課題を確認する。 「大正時代ってどんな時代？」
展 開	3 大正時代の生活や文化についてのクイズに取り組む。
	4 大正時代の生活や文化の特色を考える。
	5 米騒動を通して，民衆の運動が高まったことを知る。
	6 大正時代の主な政治上の出来事を用語集で調べる。
終 末	7 大正時代に対するイメージを書く。
	8 「課題追究プロセスカード」にまとめや評価を記入する。

（鹿児島市立吉田南中学校社会科の実践例）

イ 視覚的にとらえさせる工夫

確実な知識・理解の定着のためには，学習の中で「なるほど」という得心が必要である。例えば，地理的分野の正距方位図法の特徴を学習する場合，中心からの方位の正しさについて，平面の地図だけでは表面的な知識となる。その場合は地球儀の活用が重要である。社会科の学習では，時間的・空間的な広がりを実感させることは容易なことではないが，教材・教具の様々な工夫で視覚的にとらえさせたい。



ウ 社会事象を実感させる工夫

地形図の読み取りでは，地図記号や縮尺などの正確な知識や技能が備わることが大切である。しかし，それ以上に地形図から実際の様子をイメージできる力も重要である。例えば，地形図での長さを実際の距離として換算する場合は，1 km が実際にはどの程度の距離であるかを実感をもってとらえる必要がある。そのためには，小学校との関連を踏まえ，社会科だけではなく他の教科等での学習との関連にも配慮しながら，日常生活を通して大観する力を養っていききたい。

「基礎・基本」の定着のための改善策等について述べてきたが，社会科の特質を生かし「わかる授業」から「もっと学習したい授業」への更なる工夫改善を期待したい。

（教科教育研修課）